

**市民センター等の未来を考えよう！
オンラインワークショップ
報 告 書**

令和2年11月

市民センター等の未来を考えよう！

オンラインワークショップ

1. 趣旨・目的	1
2. 開催概要	1
3. 成果	
(1) 第1回ワークショップ「行政窓口の未来を考える」	2
①各グループの議論概要	3
②第1回のまとめ	6
(2) 第2回ワークショップ「集会施設の未来を考える」	7
①各グループの議論概要	7
②第2回のまとめ	11
(参考) 資料編	12

1. 趣旨・目的

町田市では、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」及び「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」に基づき、将来を見据えた長期的な視点で市民センター等の機能のあり方について示す「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」を2020年度に策定を予定しています。

そこで、行政窓口・集会施設のよりよい行政サービスのあり方を、市民の皆さんと一緒に考えていくことを目的として、オンラインワークショップを開催しました。

2. 開催概要

全2回のワークショップでは、オンライン通話ツール Zoom を使用して、第1回は行政窓口をテーマに、第2回は集会施設をテーマに幅広い意見を出していただきました。

日時	内容	人数
第1回 10月25日(日) 13:00~15:00	○テーマ：行政窓口の未来を考える <ul style="list-style-type: none"> 【セッション1】行政窓口での課題について意見交換を行う（配置場所、待ち時間、サービス内容、コンビニ交付の使い勝手など）。 【セッション2】行政窓口の課題について意見交換した内容を踏まえ、将来、どのようになってほしいのか、そのイメージや、オンライン化や手続きのデジタル化なども含めて意見交換を行う。 	8名
第2回 11月1日(日) 13:00~15:00	○テーマ：集会施設の未来を考える <ul style="list-style-type: none"> 【セッション1】集会施設の課題について意見交換を行う（サービス・施設内容、配置場所、利用しやすさなど）。 【セッション2】集会施設の課題について意見交換した内容を踏まえ、将来、どのようになってほしいのか、サービス内容や提供方法、他の施設との複合化なども含めて意見交換を行う。 	8名



- ・ワークショップの開催目的の説明
 - ・町田市の行政窓口・集会施設の現状の説明
 - ・当日の進行・Zoomの使い方についての説明
- ・参加者の自己紹介
 - ・行政窓口・集会施設の課題について意見交換【セッション1】
 - ・セッション1の意見交換の内容を踏まえ、将来の行政窓口・集会施設のイメージについて意見交換【セッション2】
- ・各グループ毎に【セッション1】【セッション2】で意見交換した内容を発表
 - ・全体講評

3. 成果

(1) 第1回ワークショップ「行政窓口の未来を考える」

①各グループの議論概要

グループ1

【セッション1】「行政窓口の課題」に関する意見

■場所の課題

- ・市役所に近いので支所等を利用したことがない
- ・連絡所が駅にあるのは意図が不明。少し歩けば市役所がある
- ・市役所から離れた位置や駅前等は良い判断
- ・買い物のついでに市役所の方を使った
- ・年配の方や体の不自由な人、住んでいる場所が市役所と反対方向の人は連絡所を使うのでは？
- ・多くの人にとって使いやすい窓口は課題。駅やバス停の近いところ
- ・駅に隣接しているとついでに買い物ができる

■認知度の向上

- ・連絡所の存在を知らなかった。連絡所の意味も知らない人が多いのでは
- ・近くにないと認知度が低くなる
- ・市民センター等でできることをアピールすべき

■サービス内容

- ・アンケートなどで意見を聞くべき
- ・案内の係が市民センターにいるが、市役所ではないのではないか
- ・公的書類の発行で完結しているのが課題

■待ち時間

- ・待ち時間が長いと感じたことはない
- ・他市であるが、申請に時間がかかったことがある。億劫と感じる人がいるのではないか

■開設時間

- ・市民センターで市役所などの休業日を補うとよい
- ・連絡所、センター、市役所が近くにあれば、時間帯をずらして24時間開けたらどうか
- ・もう少し開設時間を延ばせないか

【セッション2】「将来の行政窓口のイメージ」に関する意見

■課題のポイント

- 行政窓口の認知度が低い
- 連絡所の証明書発行の件数は減少傾向にあり、行政窓口を減らすべき。ただし、交通の不便な地域は残すべき
- 営業時間を延ばすべきだが、24時間営業ではなく利用ニーズに応じる

■行政窓口のオンライン化

- 行政窓口の役割がインターネットに置き換えられるイメージがある
- 個人情報すべてがインターネットに入っていくと思うが、セキュリティが重要
- 窓口での時間や負担を減らすことができる
- 証明書自体のデジタル化と手続きのデジタル化を区別すべき

■オンライン化での配慮

- オンライン化に追いつけない人への配慮が必要
- 行政窓口をいきなりゼロにするのではなく、しばらくは紙やアナログでの手続きを残す
- インターネットの危険性を考えるべき

■これからの市民センター

- 市民センターや連絡所は減らしていくべき。一方で、センター等ならではの業務を考えるべき
- 教室やパソコン講習など、近所で安価に学べる機会があるとよい
- 市民センターやホールなどを合体させるべき
- 交流する場所をくっつけるとコストも削減できる
- 施設を習い事や保育所など、オンラインでできないことをする場所に
- 年代にあわせて遊び場、交流の場をつくる

グループ2の発表

【セッション1】「行政窓口の課題」に関する意見

■設置場所

- 成瀬地域は丘を開拓して宅地造成した。駅周辺も開発が進んでいる。設置場所がいい
- 行政窓口を廃止しても、その好立地に残る立派な建物をどうするのか
- 市役所は、駅から遠いと交通費がかかる。家からの移動など、手続き以外の時間もかかる
- ほとんどの市民センターは駅から離れている。成瀬以外は、合併前に小さい町や村の役場があったところを建替えて市民センターができた。このため、時間をかけて市民センターに行く人が多い

■コンビニ交付

- コンビニ交付が可能だと知る機会がなかった
- コンビニだとセキュリティが心配
- 若者だとコンビニ交付に抵抗がない。証明書が取ればよし
- 重要な個人情報を発行することになるが、わからないことを聞きたいときにコンビニ店員を頼ることになるのは問題ではないか
- 家事や仕事で忙しい人にとって料金の支払いがコンビニでできるのは便利。これと同様に、コンビニ交付にはいい影響がある
- コンビニ交付が増えれば、街づくりや福祉などほかの仕事に人員を充てることができる
- コンビニ交付のPR方法は、ビラの配布や町田市の広報誌への掲載。また、マイナンバー取得のメリットとして知ってもらいたい

■市役所の現状の課題

- 市役所から遠い人だと、オンラインや地域センターの活用の方がいい
- 免許取得の際に住民票を取りに市役所に行ったが、手続きが長い。住民票の取得までに工程が多すぎ。受付だけで完結できないか？

■地域センターの活用方法

- 町田市には『太平記』にも登場する南北朝時代の武将や、明治時代の自由民権運動の歴史がある。それを知ってもらう機会を地域センターで設けたり、展示会を開いたりするといいい
- 子どもから大人まで世代を超えて交流会を開いたり、市政のことでわからないことを相談する場
- 市民のコミュニケーションを深める場
- ボランティアの講座や遊びの場を提供する場
- 市民が市民に市の魅力を発信する場
- 行政としての機能だけではなく、市民を楽しくすることが求められる

②第1回のまとめ

グループ1については、今後、行政窓口求められるものが変わっていくという視点が出ました。オンライン化やデジタル化が進んでいけば、証明書の発行といった従来の行政窓口の機能は縮小することになります。それとともに、行政窓口には別の役割が求められるようになり、そのひとつが、若者からお年寄りまでの地域の交流の場としての役割だというのが、グループ1からの意見でした。教室や講習といった、地域ぐるみでの学習の場が、より積極的に開催されるようになるのかもしれませんが。

グループ2については、コンビニ交付の認知度を向上させるための議論が展開されました。PRの方法として、ビラ配りや「広報まちだ」への掲載というアイデアが出ましたが、マイナンバーカードを取得するメリットとしてコンビニ交付を知ってもらおうというのは貴重な意見だったと思います。また、将来の地域センターに求められる役割として、世代を超えた交流を深める場や、町田の歴史などについて市民同士が発表する場という意見も挙げられました。

(2) 第2回ワークショップ「集会施設の未来を考える」

①各グループの議論概要

グループ1

【セッション1】「集会施設の課題」に関する意見

■使い方

- トレーニング施設を利用するとき、器具の使い方やマナーなどがわからないと、使いにくい
- ボランティアで生涯学習センターの調理室を利用するが、調理室があることに驚いた。市民ホールを学校の行事で用いることもある。使い方には案内が必要
- 施設がどこにあるのかわからない。初めて使う人にはハードルが高い

■使い方からの課題

- 多目的室を増やすべき
- 和室など特殊な部屋を廃止するのはもったいない。残しておくべき
- 空き部屋がないと多目的室を増やせない

■多目的室のメリット

- 目的の限定されていない部屋の方が使いやすい
- 調理室や和室は利用率が低いので、市役所側からしても多目的室の方がコスパがいいのではないかと

■多目的室の課題

- 目的が限られていないと管理が難しい。ゴミの整理や清掃など
- 目的が限られていないため、無理な使い方もある。備品の管理が課題。
- 椅子や机が破損した場合の責任と負担者を明確にすべき

【セッション2】「将来の集会施設のイメージ」に関する意見

■こどもの頃過ごした空間

- 学童保育を小学校低学年のときに利用した。学校の隣にあり、喋ったり、宿題したり、おやつ時間もあった。面倒を見る大人もおり、安心して過ごせた
- 小学校の帰りに市民センターの多目的室のような場所で、職員がいるところで、ゲームやおやつなどで過ごした（藤沢市）
- 友達の家に行ったり、公園など外で遊んでいた。コストが安い市民ホールも利用
- 公園や土手で野球をするなど、外で過ごしていた。学童や多目的室はある程度守られていて、無料で使えるのは子供にとってよい。親にとっても安心できる

■公園という場所

- 公園にゴミ箱がなく散らかっている。管理が問題
- 公園は時間帯によっては大人の目があり安心
- 住宅街の中にある公園は近所の目があり安全が守られる

■多世代交流のための整備

- 公園ではボールが使えない。自由度の広がる場所であると子どもの利用が多くなる
- 体育ホールの予約がないときに、子どもが自由に使えるような空間にするとよい。市民センターの転換を図る

■空間整備

- 多目的室などの使われていない時間を飲食可能な自習室にすると、勉強を教えあったり、交流が生まれる
- シバヒロのような場所は癒しも得られる。リハビリにもなる
- 大人になってくると、静かな落ち着ける場所、カフェの代わりとなる静かな学習室がよい

■環境整備として必要なもの

- Wi-Fiはつけてほしい
- パソコン利用のための充電できる設備が必要

グループ2

【セッション1】「集会施設の課題」に関する意見

■集会施設のイメージ

- 使ったことはないけど、こういうところが課題なのではないか
- 集会施設の使い方がわからない
- 屋内での利用になるので、用途が限定される
- 会議をやるというだけではなくて、地域の人たちが集まる場所

■利用状況

- コロナとデジタル化で集会施設の需要が下がる
- 使う場所によって使えない機能があるため、利用される集会施設は偏る
- 利用率が少ない施設にも税金がかかっている
- 公共施設は建物なので人件費などお金がかかる
- 集会施設の地域における役割を考えると、利用率がどうかをあまり問題にするべきではないのではないか
- コロナで利用率が下がるのは仕方がないとしても、なくてはならない場所

■立地

- 集会施設が駅から離れていて使いづらい
- かつて役場だった場所を集会施設にしているところは駅から遠い場合も

【セッション2】「将来の集会施設のイメージ」に関する意見

■ どういう機能が必要か？

- 窓を開けなくても換気できるシステム
- 防音と換気を両立できる音楽室

■ どうアピールしていくか？

- 町田市にはイベントやキャンペーンがたくさんある
- 集会施設でできることを実演して、撮影し、SNSや動画で発信できる
- コンビニなど民間でも集会施設の夜間利用などの宣伝をしたらどうか
- 若い世代向けならビラよりもSNSやYouTubeで宣伝
- ビラにQRコードを載せる
- 市役所任せではなく市民でも発信する
- 一人一台スマホを持っていることに着目

■ どういうイベントだったら行こうと思えるか？

- 地域の同世代で集まって過去を振り返る場所
- 古いものの中にもっと面白いものがあつたのではないかと、みんなが集まって相談して遊べる機会
- スポーツ、餅つき体験、音楽室で楽器体験（ふだん触れることのない楽器）、料理教室でお菓子作り

②第2回のまとめ

グループ1の発表では、集会施設は市の施設ということでコスパがよく、使いやすさがある一方で、初めての方には使い方がわかりづらい、使いづらい、そもそも場所がわからないという問題が指摘されました。いろいろな用途に使える部屋が多ければいいというものではなく、調理室や特別な部屋をなくすのはもったいないという意見も出ました。

将来の集会施設のイメージでは、子どもの頃に過ごした空間や周りに大人がいる安心感といったものが挙げられ、また、多世代交流のための整備が必要という案、飲食可能な自習室や癒しの空間としての整備が必要という案も出ました。Wi-Fi環境の整備は部屋の利用のしやすさにつながると考えられます。

グループ2については、用途の話と利用率の低さに着目していただき、現状、コロナが出てきて利用されないのは仕方がない部分もありながら、市民にとって集会施設はなくてはならない場所であるという認識で、将来の集会施設のあり方を描いていただきました。

PRという点では、SNSやYouTubeでの発信で若い人に興味を持ってもらい、高齢の方は地域の若い方たちとのつながりを新たに発見できるようになってくるといいのではないのでしょうか。

コロナについて、これから共存していかなければならないというところで、新たな換気システムが求められているという話も出ました。施設を利用するにあたって、「安心」がキーワードになるのかもしれませんが。

資料編

(1) 参加者募集公告

市民センター等の未来を考えよう！

～オンラインワークショップを開催します～

町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」及び「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」に基づき、将来を見据えた長期的な視点で市民センター等の機能のあり方について示す「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」を2020年度に策定を予定しています。

2040年に向けた行政窓口・集会施設におけるより良い行政サービスのあり方について皆さんと一緒に考えていくために、オンラインワークショップを開催します。多世代の方からの多くのご参加をお待ちしております！

第1回

日時：2020年10月25日（日）13時～15時

テーマ：行政窓口の未来を考える

第2回

日時：2020年11月1日（日）13時～15時

テーマ：集会施設の未来を考える

応募要件

- ・町田市に在住・在勤・在学の方
 - ・町田市に関心やご縁のある方
 - ・原則2回参加頂ける方
 - ・オンライン通話ツール「Zoom」が利用できる方。
- ※インターネット環境が整わない方はご相談ください。

定員

30人程度（申し込み順）

応募期限

2020年10月15日（木）必着

※ご参加にあたっては、別紙「ワークショップの開催にあたって」をご一読ください。

申込方法は裏面をご確認ください。

当日までの流れ

参加登録

申込方法

●メールでのお申し込み

参加申込書にご記入いただき、下記アドレスまでお送りください。
(件名を「市民センター等の未来を考えよう！ワークショップ参加申込」としてください。)

メールアドレス：mcity4690@city.machida.tokyo.jp

●FAX でのお申し込み

参加申込書にご記入いただき、FAX 番号：050-3085-6551
までお送りください。

●申込書のご郵送

参加申込書にご記入いただき、下記住所までお送りください。
住所：〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
町田市役所市民部市民総務課 宛

●申込書のご持参

参加申込書にご記入いただき、町田市役所市民部市民総務課（市庁舎
2階 窓口番号201）に直接お持ちください。（受付時間8:30～
17:00（平日のみ））

参加方法 の連絡

参加方法のお知らせ

●お申しいただいた方に、オンライン会議の参加方法をメールにてご
連絡いたします。

※メールでのご案内となりますので、参加登録時にメールアドレスの
ご記入に間違いの無いようお願いいたします。

当日

参加方法

●当日は、お手持ちのスマートフォン、タブレット端末、PC などか
らインターネット経由でご参加いただけます。

※参加にあたり発生する通信料は参加者様のご負担になります。あら
かじめご了承ください。

【問い合わせ先】

町田市市民部市民総務課

担当：副野、松井

電話：042-724-4346

FAX：050-3085-6551

Eメール：mcity4690@city.machida.tokyo.jp

(2) 現状説明資料

資料は、「市民センター等の現状」（「第1回町田市市民センター等のあり方検討委員会」資料7）および「2019年度行政窓口・集会施設に関する市民意識調査報告書」に基づくものです。

【第1回ワークショップ「行政窓口の未来を考える」】

行政窓口の現状

1

行政窓口の様子



南市民センター

鶴川市民センター

2

市民センター等の設置状況及び行政窓口の業務内容

●設置状況

町田市では行政窓口として市民センターを6箇所、連絡所を5箇所、集会施設として市民センターを6箇所、コミュニティセンター等を8箇所設置している。

<行政窓口>

6市民センター（忠生市民センター、鶴川市民センター、南市民センター、なるせ駅前市民センター、堺市民センター、小山市民センター）

5連絡所（町田駅前連絡所、木曽山崎連絡所、玉川学園駅前連絡所、鶴川駅前連絡所、南町田駅前連絡所）

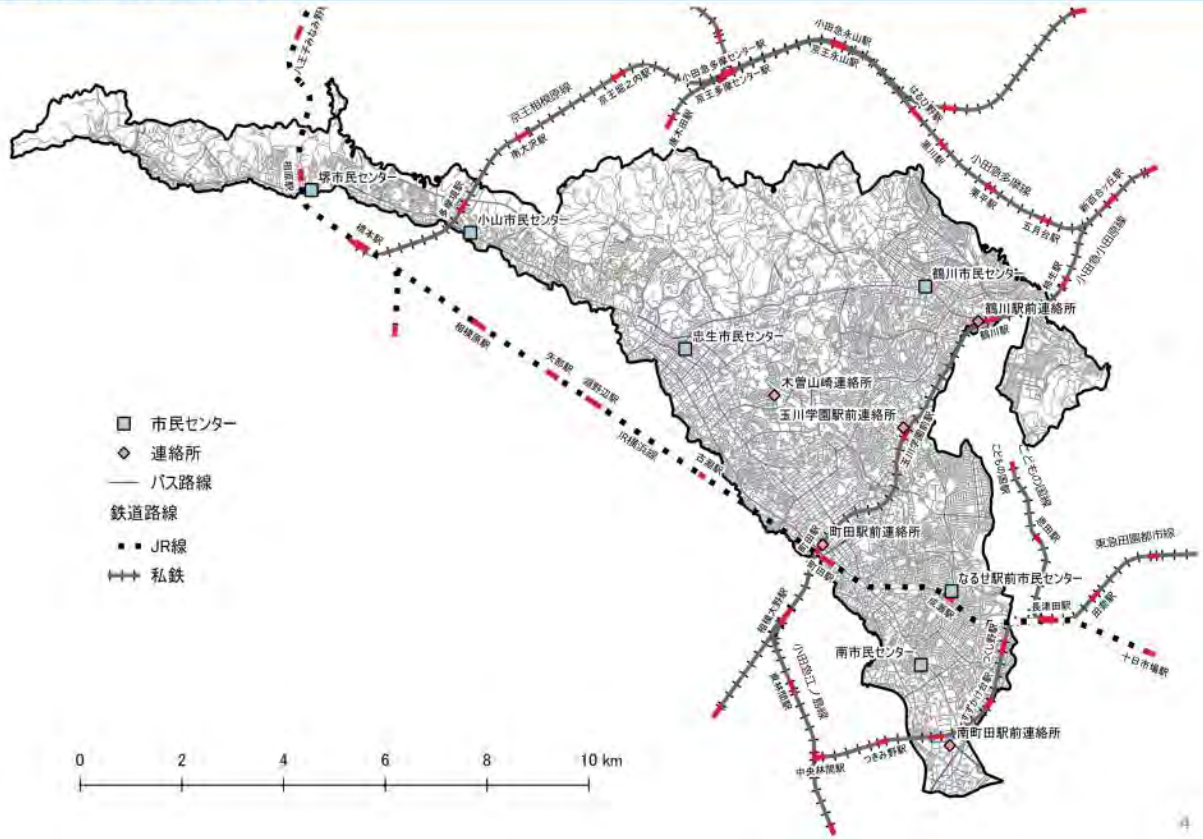
●業務内容

<行政窓口> （各施設の主な行政窓口機能）

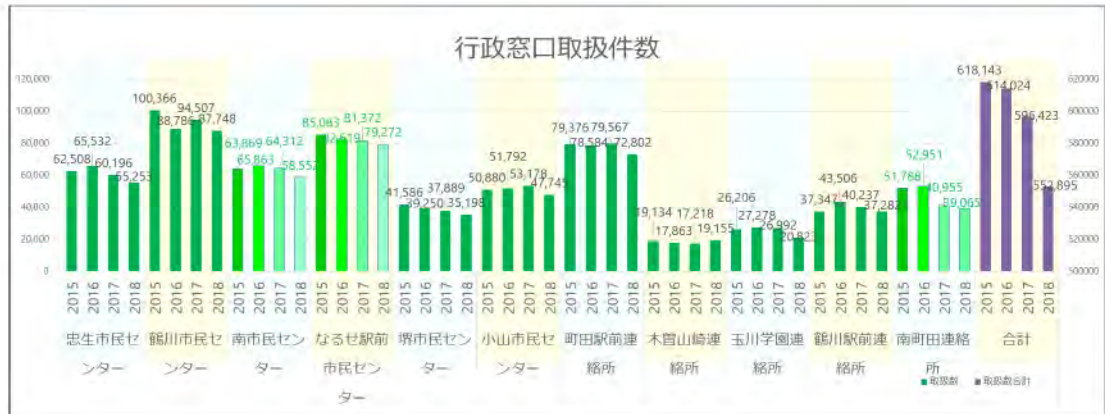
市民センター	証明書発行（住民票・戸籍・印鑑・税証明など）、登録・届出（住民票・戸籍・印鑑など）、マイナンバーカード（個人番号カード）関連申請・届出、申請・届出（国民健康保険・国民年金）、高齢者関連申請（後期高齢者医療・介護保険）、子ども関連申請（児童手当・乳幼児医療・母子手帳など）、市税の納付、その他手続き（飼育犬登録・交通共済加入・自動車臨時運行許可など）
連絡所	証明書発行（住民票・戸籍・印鑑・税証明など）、子ども関連申請（母子手帳）

3

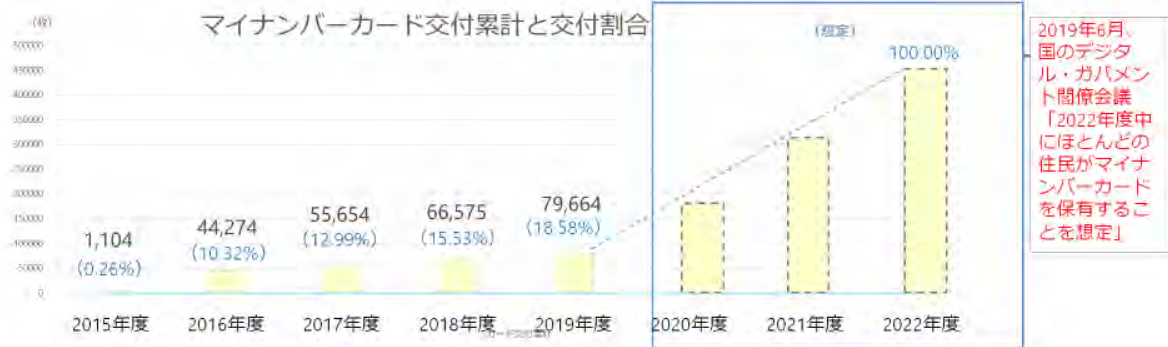
市全体の行政窓口配置状況



施設利用の推移 (2015~2018年度)



町田市におけるマイナンバーカードの状況



マイナンバーカード普及促進の要素

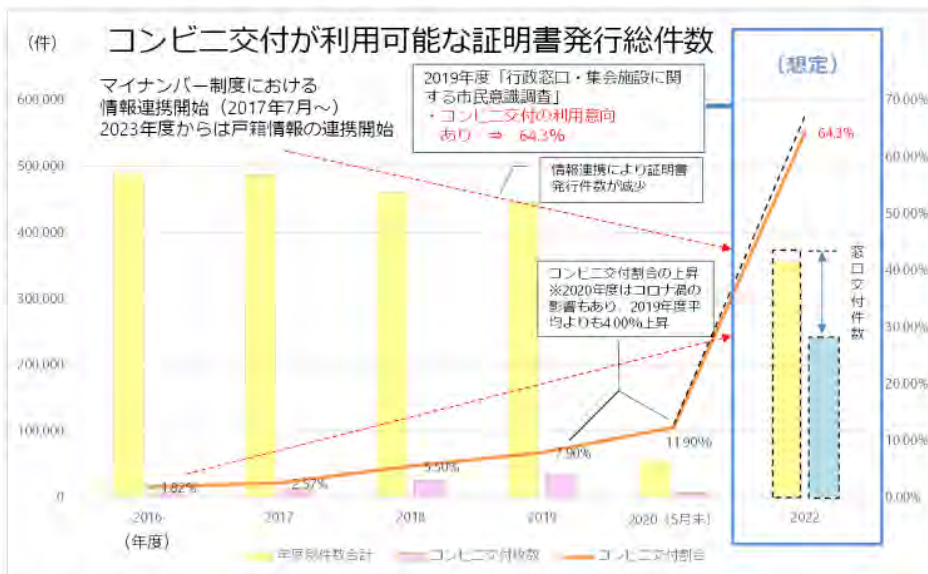
【2020年度】

- ◆マイナポイント事業開始 (※)
 - ◆健康保険証として利用可能
- ※キャッシュレス決済時にお買い物等に利用できるポイントを付与

【今後】

- ◆薬剤情報・特定健診情報等の照会・提供サービス開始
- ◆各種カード、手帳等の一体化の推進 (例：ハローワークカード、ジョブカード、母子健康手帳、障害者手帳等)
- ◆2020年6月、マイナンバー制度及び国と地方のデジタル基盤抜本改善ワーキンググループにて、運転免許証との一体化を検討することを決定

6



マイナンバーカードの普及により、窓口での証明書発行件数の大幅な減少が見込まれる。

- 2019年6月、国のデジタル・ガバメント閣僚会議「2022年度中にほとんどの住民がマイナンバーカードを保有することを想定」
- マイナンバーカードの普及によりコンビニ交付の利用が増加
- マイナンバーを利用した情報連携により証明書発行件数が減少



- 窓口での証明書発行取扱件数 (窓口交付件数) が減少

7

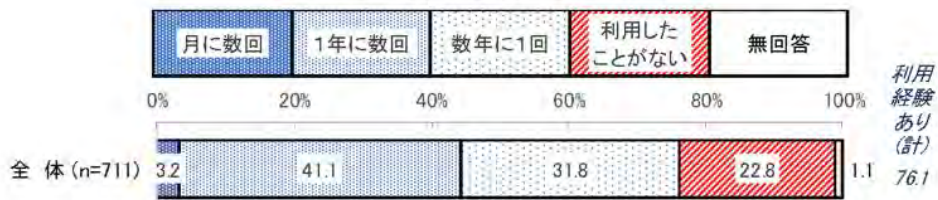
(1) 行政窓口の利用状況

問1 あなたは行政窓口をどの程度利用していますか。利用状況についてお伺いします。(あてはまるものを選び、数字に○をつけてください。)

①「市民センター」の利用頻度

「1年に数回」(41.1%)の割合が最も高く、次いで「数年に1回」(31.8%)が高い。「利用経験あり(計)」は76.1%である。

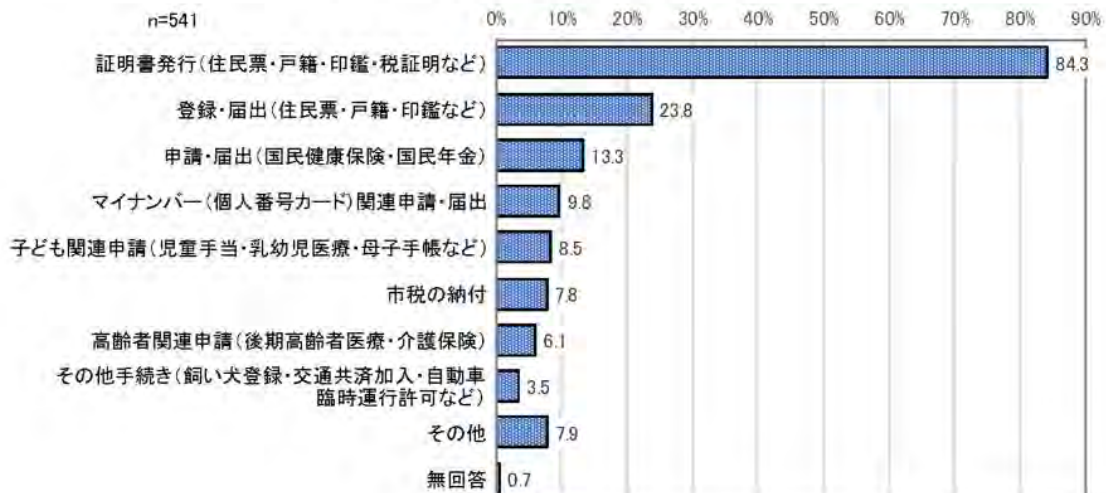
図Ⅲ-1-1 市民センターの利用頻度



②「市民センター」の利用目的

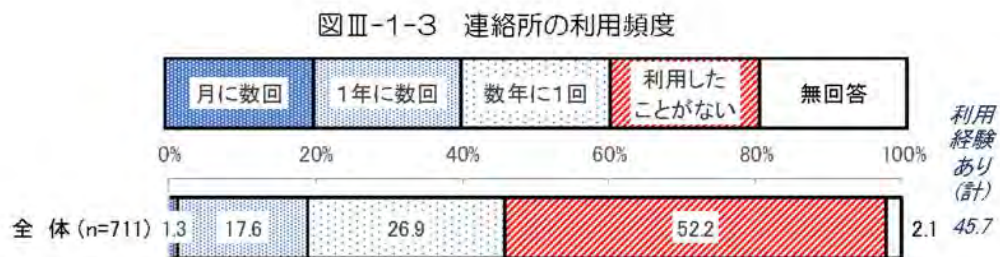
「証明書発行(住民票・戸籍・印鑑・税証明など)」(84.3%)の割合が他の項目より3倍以上高い。以下「登録・届出(住民票・戸籍・印鑑など)」(23.8%)、「申請・届出(国民健康保険・国民年金)」(13.3%)などと続く。

図Ⅲ-1-2 市民センターの利用目的



③「連絡所」の利用頻度

「利用したことがない」(52.2%)が過半数を占める。以下「数年に1回」(26.9%)、「1年に数回」(17.6%)などと続く。「利用経験あり(計)」は45.7%である。



10

④「連絡所」の利用目的

「証明書発行(住民票・戸籍・印鑑・税証明など)」(91.4%)が9割強を占める。「子ども関連申請(母子手帳)」は4.3%、「その他」は9.5%である。



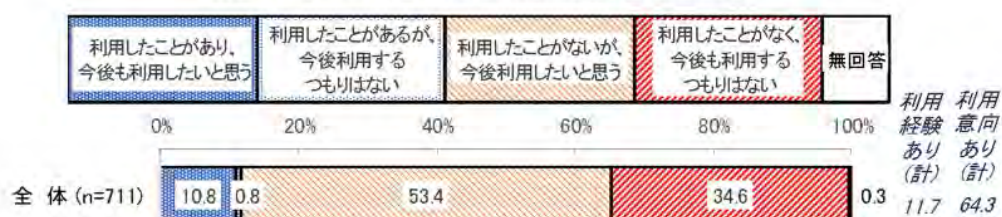
11

(2) コンビニ交付の利用状況と利用意向

問2 町田市では、各種証明書（住民票写し、印鑑登録証明書ほか）のコンビニエンスストアでの自動交付サービス（コンビニ交付）を実施しています。証明書のコンビニ交付の利用についてお伺いします。（あてはまるものを1つ選び、数字に○をつけてください。）

「利用したことがないが、今後利用したいと思う」（53.4%）の割合が最も高く、次いで「利用したことがなく、今後も利用するつもりはない」（34.6%）が高い。「利用経験あり（計）」（11.7%）は1割強にとどまっているが、「利用意向あり（計）」（64.3%）は6割を超える。

図Ⅲ-1-5 コンビニ交付の利用状況と利用意向



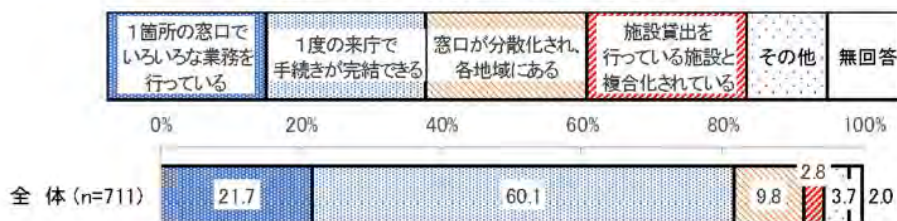
12

(3) 行政窓口を求めるもの

問3 あなたが手続きを行う際に、行政窓口を求めるものについてお伺いします。（あなたの考えに合うものを1つ選び、数字に○をつけてください。）

「1度の来庁で手続きが完結できる」（60.1%）の割合が最も高い。次いで差があって「1箇所の窓口でいろいろな業務を行っている」（21.7%）が続く。

図Ⅲ-1-6 行政窓口を求めるもの



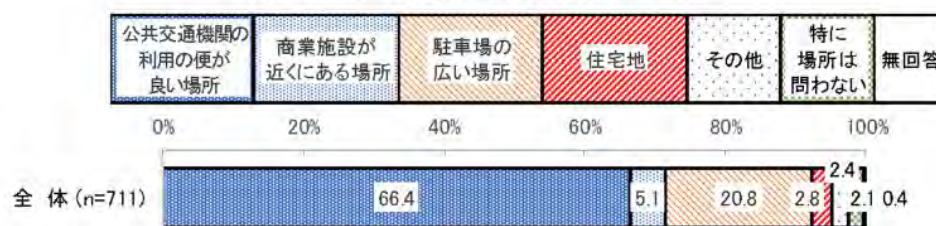
13

(4) 行政窓口の最適な配置場所

問4 多くの方の利便性を考えた場合の、行政窓口の最適な配置場所についてお伺いします。(あなたの考えに合うものを1つ選び、数字に○をつけてください。)

「公共交通機関の利用の便が良い場所」(66.4%)の割合が最も高く、ほぼ3分の2を占める。次いで「駐車場の広い場所」(20.8%)が続く。

図Ⅲ-1-7 行政窓口の最適な配置場所



14

(5) 行政窓口の方向性

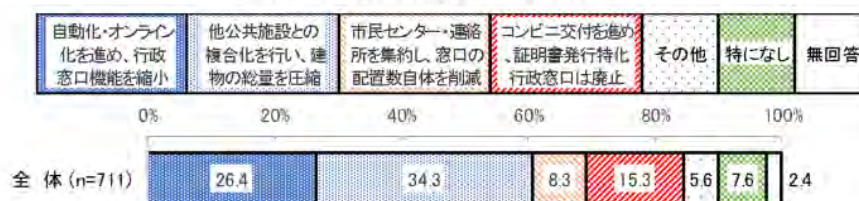
問5 将来的に予測される財政負担を抑制するため、どのような方向にしていくとよいですか。(あなたの考えに合うものを1つ選び、数字に○をつけてください。)

「他公共施設との複合化を行い、建物の総量を圧縮」(34.3%)の割合が最も高く、以下「自動化・オンライン化を進め、行政窓口機能を縮小」(26.4%)、「コンビニ交付を進め、証明書発行特化行政窓口は廃止」(15.3%)などと続く。

注) 図中の選択肢の語句は簡略化している。調査票の語句は図の左から以下の通り。

1. 「行政手続の自動化あるいはオンライン化を進め、市民センターや連絡所などの行政窓口機能を縮小すべき」
2. 「市民センター及び連絡所の維持管理に係るコストを削減するため、施設の更新に合わせて他の公共施設との複合化を行い、建物の総量を圧縮すべき」
3. 「市民センター及び連絡所を集約し、行政窓口の配置数自体を削減すべき」
4. 「コンビニエンスストアの証明書自動交付サービスの普及を進め、証明書発行に特化した行政窓口(連絡所)は廃止すべき」

図Ⅲ-1-8 行政窓口の方向性



15

集会施設の現状

集会施設の様子①



忠生市民センター／ホール
(定員300人)



忠生市民センター／会議室
(定員24人)

2

集会施設の様子②



鶴川市民センター／音楽室
(定員30人)



鶴川市民センター／和室 1
(定員40人)

3

集会施設の様子③



成瀬コミュニティセンター
／フリースペース



成瀬コミュニティセンター
／多目的室A・B（定員24・24人）

4

市民センター等の設置状況及び集会施設の業務内容

●設置状況

町田市では集会施設として市民センターを6箇所、コミュニティセンター等を8箇所設置している。

<集会施設>

6市民センター（忠生市民センター、鶴川市民センター、南市民センター、なるせ駅前市民センター、堺市民センター、小山市民センター）

8コミュニティセンター等（玉川学園コミュニティセンター、木曾森野コミュニティセンター、上小山田コミュニティセンター、木曾山崎コミュニティセンター、つくし野コミュニティセンター、成瀬コミュニティセンター、三輪コミュニティセンター、町田市民フォーラム）

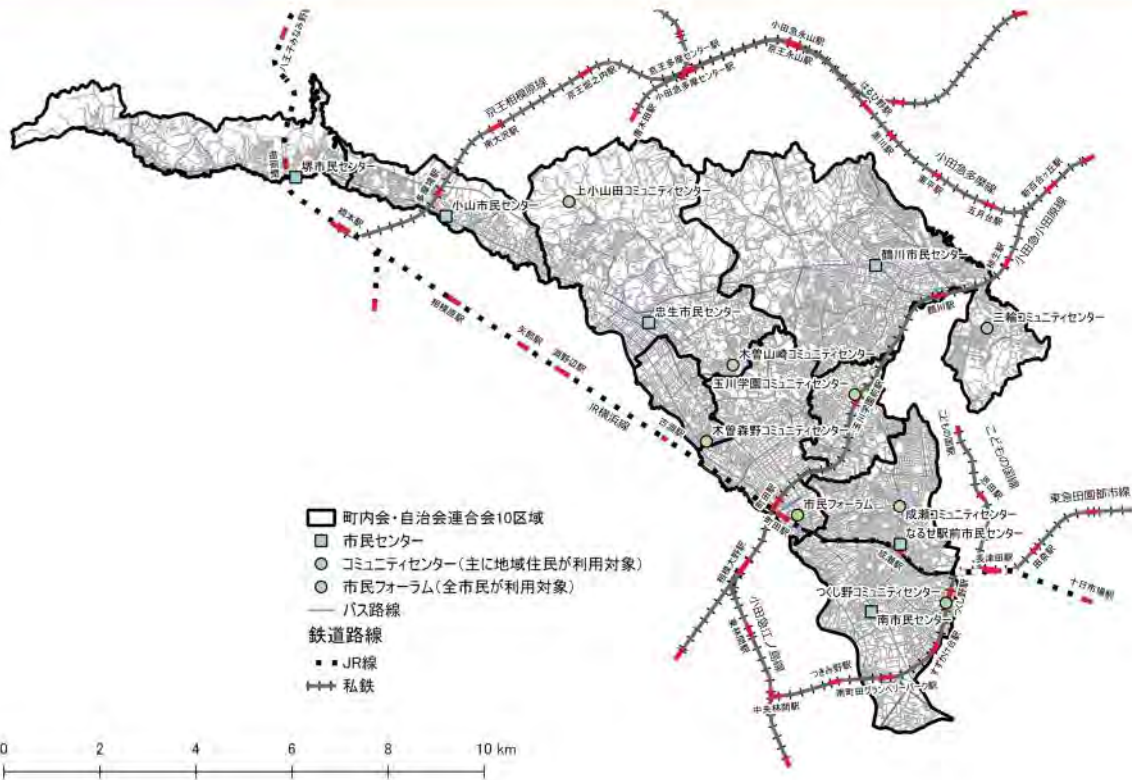
●業務内容

<集会施設> （各施設の主な施設貸出（施設により異なる））

ホール、会議室、多目的室、和室、音楽室、料理講習室、美術工芸室、保育室、学習室、視聴覚室

5

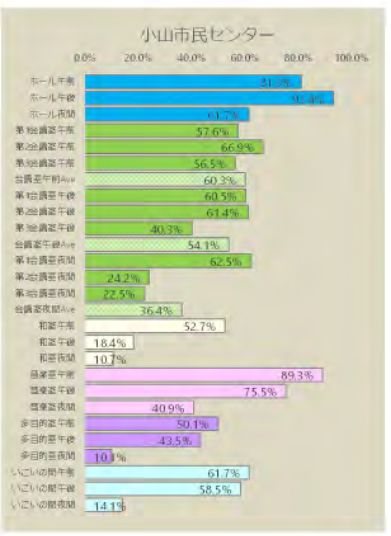
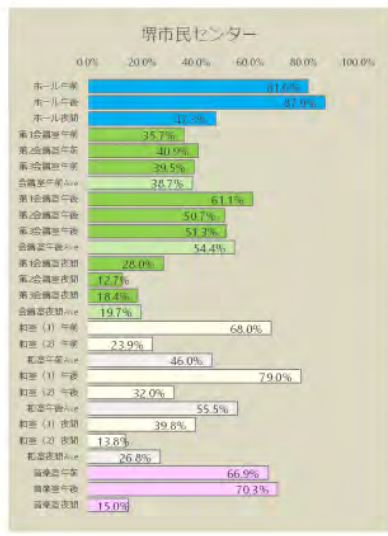
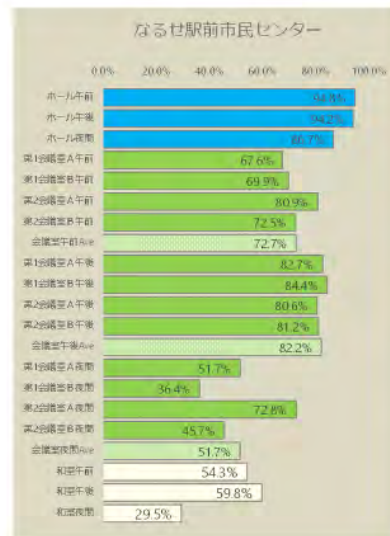
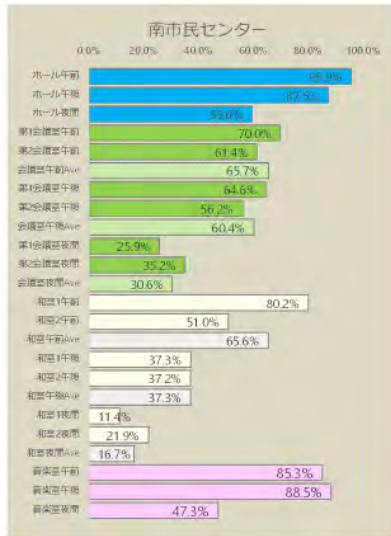
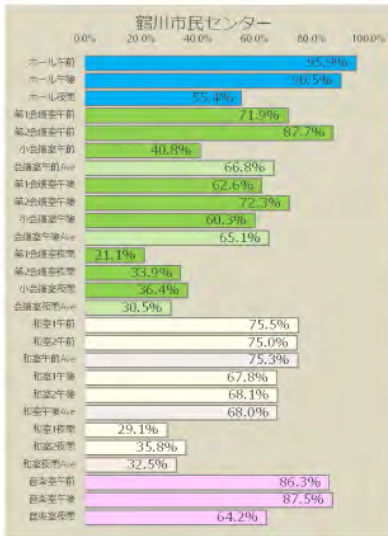
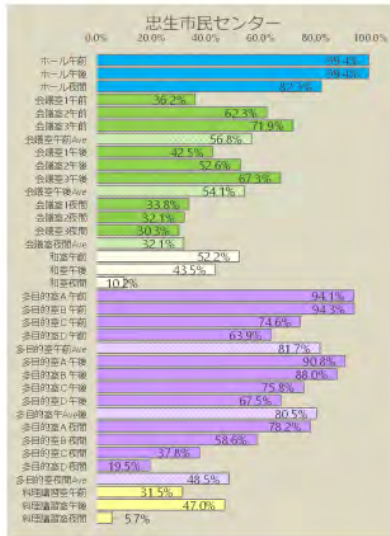
市全体の集会施設配置状況

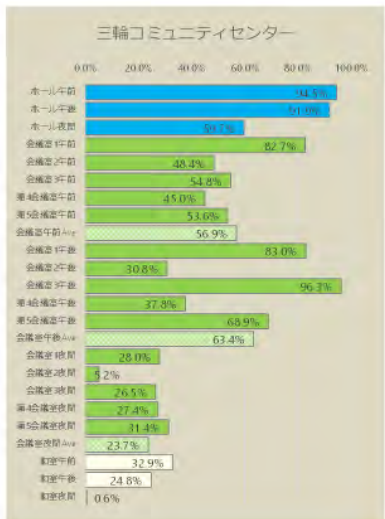
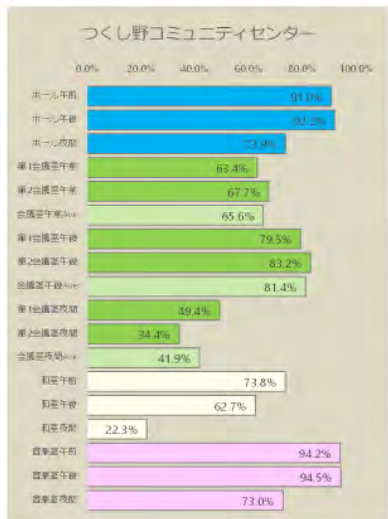
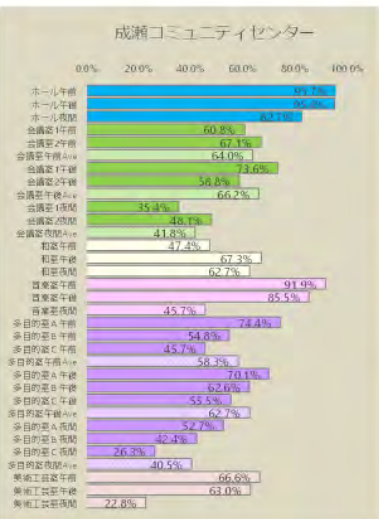
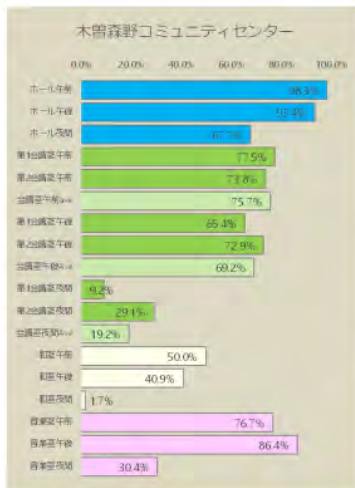
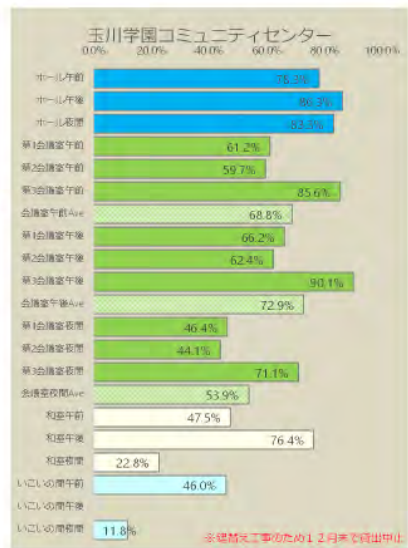
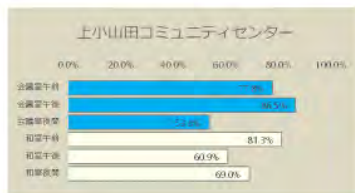
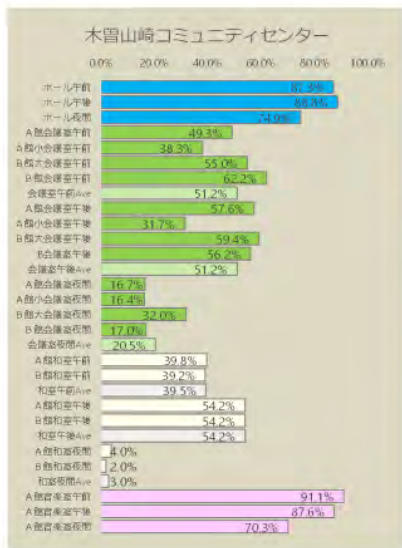


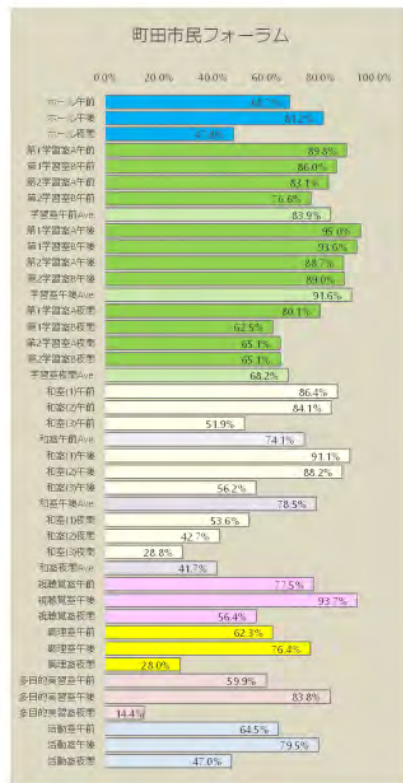
施設利用の推移 (2015~2018年度)



2018年度 地域センター時間帯別施設利用率







12

2019年度 行政窓口・集会施設に関する市民意識調査報告書

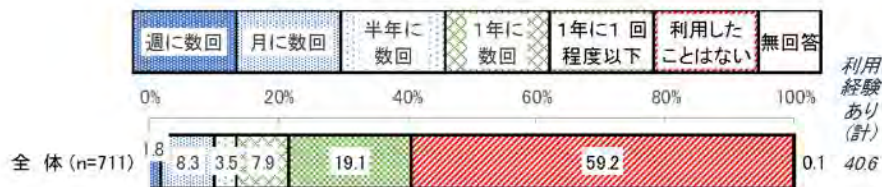
(1) 集会施設の利用状況

問6 あなたは集会施設をどの程度利用していますか。利用状況等についてお伺いします。(あてはまるものを選び、数字に○をつけてください。)

①集会施設の利用頻度

「利用したことはない」(59.2%)が6割弱を占める。以下「1年に1回程度以下」(19.1%)、「月に数回」(8.3%)、「1年に数回」(7.9%)などと続く。「利用経験あり(計)」は40.6%である。

図Ⅲ-2-1 集会施設の利用頻度

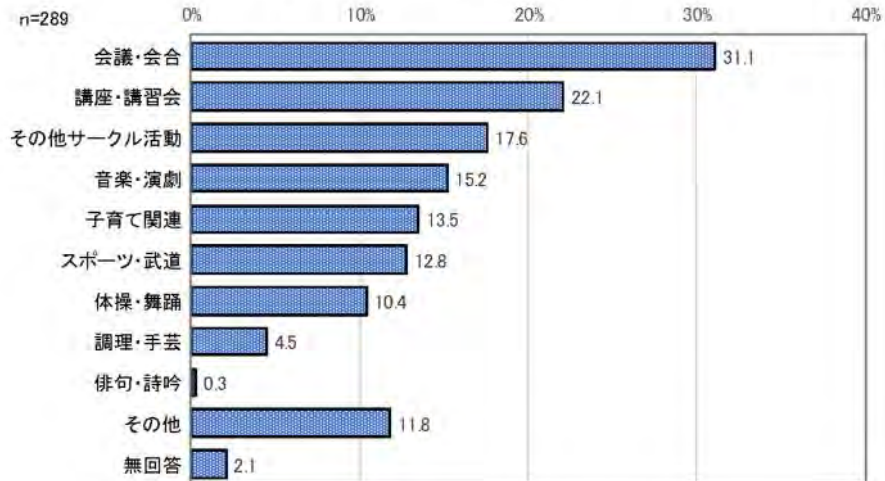


13

②集会施設の利用目的

「会議・会合」(31.1%)の割合が最も高く、以下「講座・講習会」(22.1%)、「その他サークル活動」(17.6%)、「音楽・演劇」(15.2%)などと続く。

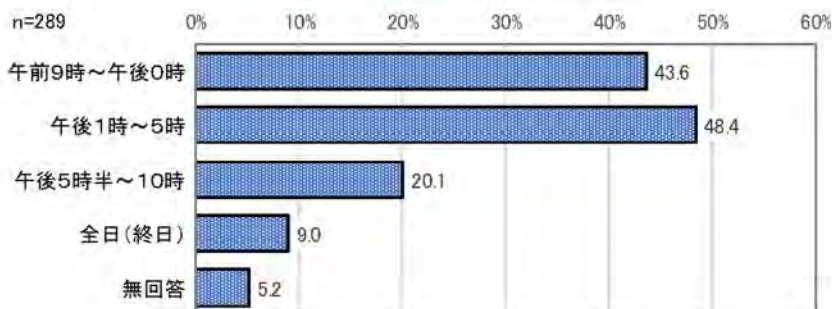
図Ⅲ-2-2 集会施設の利用目的



③集会施設の利用時間帯

「午後1時～5時」(48.4%)の割合が最も高く、次いで「午前9時～午後0時」(43.6%)が高い。「午後5時半～10時」は20.1%、「全日(終日)」は9.0%である。

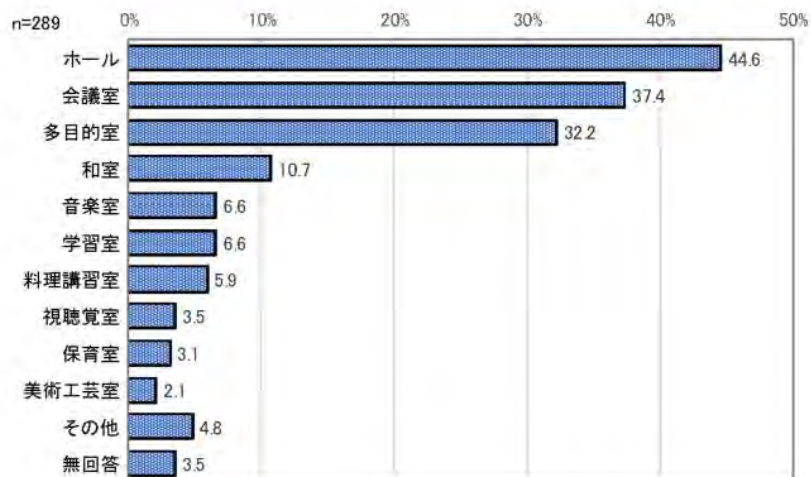
図Ⅲ-2-3 集会施設の利用時間帯



④集会施設の利用する部屋

「ホール」(44.6%)の割合が最も高く、次いで「会議室」(37.4%)、「多目的室」(32.2%)が高い。

図Ⅲ-2-4 集会施設の利用する部屋

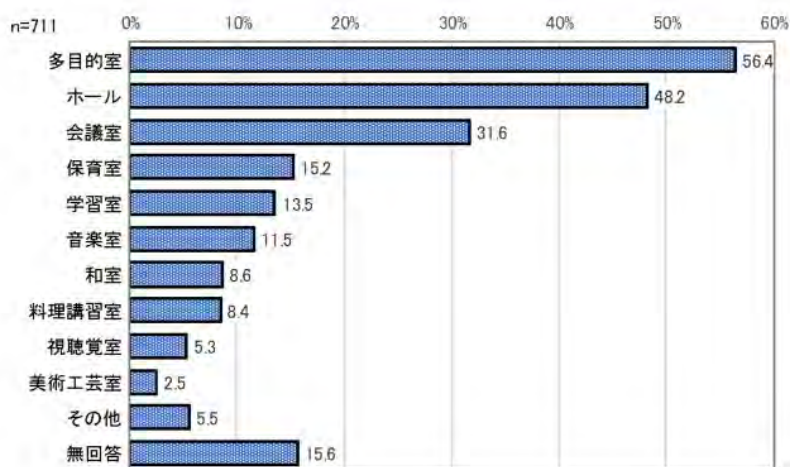


16

⑤集会施設として必要と思う部屋

「多目的室」(56.4%)の割合が最も高く、次いで「ホール」(48.2%)が高い。以下「会議室」(31.6%)、「保育室」(15.2%)、「学習室」(13.5%)、「音楽室」(11.5%)などと続く。

図Ⅲ-2-5 集会施設として必要と思う部屋



17

(2) 集会施設非利用理由

問7 集会施設を利用しない理由についてお答えください（あてはまる数字全てに○をつけてください。） [問6の利用頻度で「利用しない」と回答した人のみ対象]

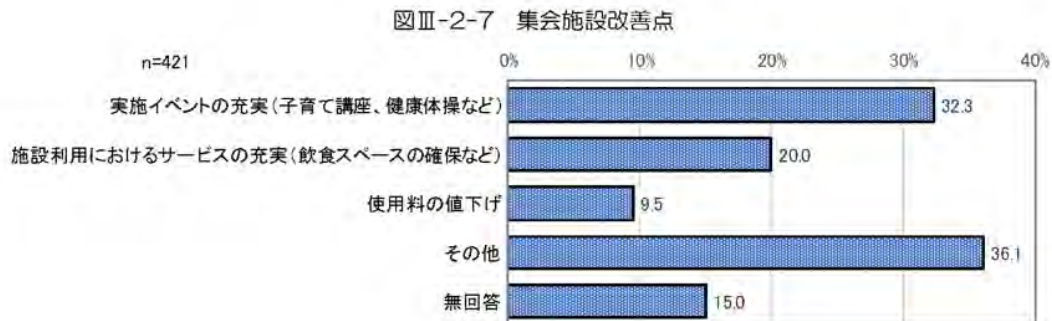
「特に利用する機会がない」（75.8%）の割合が約4分の3を占めている。具体的な回答としては、「施設の使い方がわからない」（16.9%）、「施設の利用を知らない」（13.3%）、「利用しやすい場所がない」（8.8%）の順に続く。



(3) 集会施設改善点

問8 今後、どのように変われば集会施設を利用したいと思いますか。（あてはまる数字全てに○をつけてください。） [問6の利用頻度で「利用しない」と回答した人のみ対象]

「実施イベントの充実（子育て講座、健康体操など）」（32.3%）の割合が最も高く、以下「施設利用におけるサービスの充実（飲食スペースの確保など）」（20.0%）、「使用料の値下げ」（9.5%）の順である。

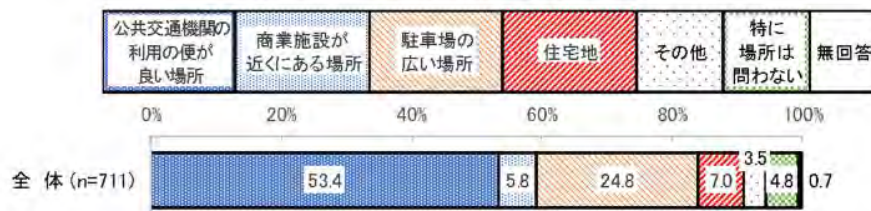


(4) 集会施設の最適な配置場所

問9 多くの方の利便性を考えた場合の、集会施設の最適な配置場所についてお伺いします。(あなたの考えに合うものを1つ選び、数字に○をつけてください。)

「公共交通機関の利用の便が良い場所」(53.4%)の割合が最も高く、過半数を占める。次いで「駐車場の広い場所」(24.8%)が高い。

図Ⅲ-2-8 集会施設の最適な配置場所



20

(5) 集会施設の方向性

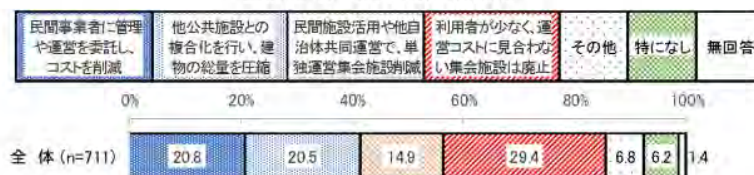
問10 将来的に予測される財政負担を抑制するため、どのような方向にしていくとよいですか。(あなたの考えに合うものを1つ選び、数字に○をつけてください。)

「利用者が少なく、運営コストに見合わない集会施設は廃止」(29.4%)の割合が最も高く、以下「民間事業者に管理や運営を委託し、コストを削減」(20.8%)、「他公共施設との複合化を行い、建物の総量を圧縮」(20.5%)、「民間施設活用や他自治体共同運営で、単独運営集会施設削減」(14.9%)と続く。

注) 図中の選択肢の語句は簡略化している。調査票の語句は図の左から以下の通り。

1. 「民間事業者に施設の管理や運営を委託することにより、そのノウハウや資金を活用し、コストの削減を図るべき」
2. 「集会施設の維持管理に係るコストを削減するため、施設の更新に合わせて他の公共施設との複合化を行い、建物の総量を圧縮すべき」
3. 「民間施設の活用や他の自治体との共同運営を進めることにより、市が単独で運営する集会施設を削減すべき」
4. 「利用者が少なく、運営コストに見合わない集会施設は廃止すべき」

図Ⅲ-2-9 集会施設の方向性



21